

熊谷市史編さん委員会・編集会議・専門部会報告

(平成二十一年一月～二月)

I 平成二十一年度編さん委員会報告

日時 平成二十一年一〇月一日(日)午後二時

場所 熊谷市立商工会館 二の三会議室

【概要】

・委嘱状交付(任期満了にともない)

・教育長あいさつ

・委員長・副委員長の選出

互選により、村田委員を委員長に、飯塚委員を副委員長に選出した。

・会議内容

1 編集会議・専門部会活動報告

熊谷市史編集会議の開催状況及び七つの専門部会開催状況・調査活動状況について事務局から報告をした。専門部会活動状況については、近代及び民俗専門

部会長から補足説明がされた。

2 事務局が行った基礎調査等について

古文書調査・民俗基礎調査・行政文書整理保存・中世石造物調査の状況及び熊谷市史研究創刊号を刊行したことについて事務局から説明を行った。

3 市史編さん委員会会議の公開について

「熊谷市付属機関の会議の公開に関する要綱」及び「付属機関の設置及び運営に関する指針」に基づき、熊谷市史編さん委員会の会議について、今後開催する会議から原則公開とする。また、公開に関する事務や手続きは事務局である市史編さん室が行うことの提案説明を担当副参事から行う。

質疑としては、「非公開とする可能性があるのか」との質問が出され、市史編さん委員会は基本方針・基本計画に関する事項について審議するので、非公開にす

る内容はほとんどないとの事務局の答弁に対して、ほかに質問もなく、原案どおり決定した。

Ⅱ 平成二〇年度第二回編集会議報告

日時 平成二一年三月二〇日(日) 午後二時

場所 熊谷市立熊谷図書館 第二講座室

【概要】

1 経過報告

平成二〇年度第一回編集会議の報告を行った。

2 各部会進捗状況

各専門部会より、平成二〇年度下半期の進捗状況や

課題点等について報告がなされた。

3 事務局が行う基礎調査の活動状況

事務局より、古文書調査、民俗基礎調査、行政文書

の収集・選別・保存について報告を行った。

4 平成二一年度の計画について

事務局より、各専門部会の会議や活動回数、事務局

の調査計画等について説明を行った。

5 市史研究について

『熊谷市史研究』について、目次案や各専門部会持

ち回りで論考を執筆してもらうこと等を審議した。

二 熊谷市史編さん委員会の委員

市史編さん委員の任期が平成二一年七月三二日で満了となつたため、次の方々平成二一年八月一日から二年

間の委嘱を行った。

新井 宏 (市議会議員)

谷 幸代 (市議会議員)

小野 美代子 (文化財保護審査委員)

飯塚 好 (知識経験を有する者)

柿沼 幹夫 (知識経験を有する者)

北村 行遠 (知識経験を有する者)

宮瀧 交二 (知識経験を有する者)

村田 安穂 (知識経験を有する者)

小池 博 (市民団体の代表者)

小林 芳雄 (市民団体の代表者)

鶴田 幸子 (公募による市民)

(文責 山本 喜久治)

(文責 蛭間 健悟)

Ⅲ 専門部会活動報告

一 考古専門部会

考古専門部会長 柿沼 幹夫

本年度は、平成二十一年五月九日の第一回専門部会における年度計画協議を受けて、六月二〇日に熊谷市立熊谷図書館で、熊谷市が生んだ考古学者、故・小澤國平氏が遺した資料・図書類の目録取りを行った。小澤氏の資料・図書類は、「小澤文庫」として市立熊谷図書館の所蔵となっている。この結果、熊谷市史に関わる資料は、中世石造物等に見るべきものがあることが明らかになった。それ以外の時代・分野については、各専門調査員の判断により必要に応じ活用することとした。

また、同日は上円下方墳として国の史跡となっている宮塚古墳を含む広瀬古墳群の現地調査を行った。この調査の結果、宮塚古墳の上円部とされる墳丘の直径が石室を覆うには極めて小さいことが確認された。また、一帯には、葺石や後込めに使用されたと考えられる礫や、天井石に使用されたりしい切石が路端にまとめられており、多数の古墳が破壊され改変されたことが明らかであった。宮塚古墳を含む広瀬古墳群は、かつて多数の古

墳が群集する終末期の古墳群であったことが想定されたのである。

熊谷市域には、古墳時代前期から終末期まで、特徴ある古墳が現存ないしは調査されているので、その編年・性格を明らかにするために今後、測量調査や一部試掘調査の実施を検討していく必要性が確認された。

平成二十一年一〇月三日には、第二回考古専門部会を大里行政センターで開催し、平成二十二年度の調査計画について検討した。併せて、旧大里文化財整理所で出土遺物の状況を確認した。会議では、妻沼低地における遺跡の形成と利根川、荒川の流路の変遷との関わりが話題となった。荒川と利根川は、縄文時代には現在の荒川低地を流れていたが、ある時点から東遷し元荒川筋に転じて新荒川扇状地を形成する。この時点を縄文時代後期頃とする説、弥生時代以降から古墳時代とする説、七世紀後半代とする説などがある。妻沼低地への遺跡の進出はいつか、弥生時代における水稻農耕集落の展開、あるいは埼玉古墳群の形成・展開、古代における生産・交通・境界等の解明について、流路の変遷が一つの鍵を握っている。今後、地質学との連携を強めていく必要性についても確認した。

二 古代専門部会

古代専門部会長 宮瀧 交二

古代専門部会は、本年度（平成二二年度）も昨年度に引き続いて、平成二四年度に予定されている『熊谷市史資料編2 古代・中世』、そして平成二八年度に予定されている『熊谷市史 通史編 上巻（原始・古代・中世）』の刊行に向けての調査・研究活動を実施した。

部会長と三名の専門調査員は、昨年度から検討を開始した『熊谷市史』（昭和五九年）、『江南町史 資料編2 古代・中世』（平成一〇年刊行）・『江南町史 通史編 上巻』（平成一六年刊行）、『大里村史（通史編）』（平成二一年刊行）、『妻沼町誌』（昭和五二年刊行）に加えて、本年度は新たに『新編埼玉県史 通史編1 原始・古代』（昭和六二年刊行）も検討対象として、各書に収められた現・熊谷市域に関する古代史・資料の確認作業、更には各書に叙述された現・熊谷市域の古代史に関する記述の確認作業を行った。

平成二一年一月二八日に本年度の第一回専門部会会議、そして本年二月四日に第二回専門部会会議を開催

し、各人の作業の進捗状況の確認や、作業途中に派生した諸問題に関する意見交換を実施した。本年度は三月中にもう一度専門部会会議を開催し、現在進めている作業の充実を図る予定である。こうした作業を経て、現・熊谷市域に関する周知の古代史・資料を確実に把握した上で、平成二二年度には、これまでに刊行された関連の自治体史には収録されていない新たな現・熊谷市域に関する古代史・資料を発掘する作業に取りかかる予定である。墨書土器や刻字紡錘車といった現・熊谷市域の遺跡から出土した文字資料の集成はもとより、従来精査されていなかった中央貴族の日記等にも武蔵国の当該地域に関する記述があるものと思われるので、その検討に着手する予定である。

なお、古代専門部会の活動方針に関しては、本誌に宮瀧が「熊谷市史の編さんと古代専門部会の活動方針」を執筆しているのので、併せて御参照いただければ幸いである。

三 中世専門部会

中世専門部会長 高橋 修

一、中世専門部会の開催

今年度の中世専門部会は、五月一〇日と九月二二日の二回を開催し、三月までにあと一回の開催を予定している。主に平成二四年に刊行予定の「資料編二 古代・中世」の編纂方針についての審議を行った。

凡例をほぼ確定し、各時代ごとに作成した収録史料目録の検討を進めた。活字の組み方(版面)についても、近年刊行された自治体史を参考にして、原案作成を進めている。特に熊谷市域の中世史研究にとって重要な史料については、別冊とする写真集に、図版とともに詳細なデータを収めるため、今年度に引き続き原本調査を進める方針も確認された。

二、史料調査

中世専門部会による史料調査は、四日間にわたり、計四ヶ所について実施された。以下、史料群ごとに、その概要をまとめておく。

①北爪家文書 市内新堀個人蔵

戦国時代、上野の女淵郷(群馬県前橋市)の土豪として活動した北爪氏(新八郎家)のもとに伝わる家伝文書を実見することができた。永禄六年(一五六三)に上杉謙信の家臣・長尾景長が、上野狸塚郷等三〇貫文の領地を北爪助八に安堵した感状をはじめ、五点の中世文書について調査・撮影した。

②別符家文書 静岡市西敬寺蔵

別府郷(市内西別府・東別府)の武士・別符家に伝わった文書群の調査を行った。鎌倉時代から室町時代にかけての古文書二〇点、別符氏系図および別符家銅印等について、実見・撮影した。別符氏の所領支配や軍事行動の実際を語る重要な文書群であることに加え、未表装の状態で伝来しており、文書としての原型をうかがうことができる点でも、たいへん貴重な武家文書である。「資料編二 古代・中世」では、写真版とともに掲載することを検討している。

③島田家文書 栃木県佐野市個人蔵

長井荘(市内日向)を本貫とする武士・嶋田家に伝わった文書調査を実施し、実見の上、撮影を行った。こ

の文書群には、古河公方足利政氏・高基や羽生城主・木戸忠朝の発給文書等五点の他に、長井氏宛の文書なども含まれる。

④常光院文書 熊谷市上中条常光院蔵

鎌倉幕府の有力御家人として知られる中条氏所縁の寺・常光院に伝わる中世文書について、原本調査を実施した。残念ながら中世の中条氏に直接結びつく史料はないが、天正一八年、忍(行田市)の正伝院宛に発給された豊臣秀吉禁制等、六点の近世初頭の古文書を確認し、精査・撮影できた。

なお中世専門部会では、以上の他に、年度末には、山口県文書館に寄託されている「熊谷家文書」の原本調査などを実施する予定である。

三、石造物調査

中世専門部会には、調査報告書『中世の石造物』を刊行するため、「資料編二」編纂とは別に専門調査員・協力員の委嘱を行い、市内に所在する中世石造物の悉皆調査を進めている。

一月二五日と六月一三日には、中世石造物調査会議を

開き、江南地域を除く市内のすべての中世石造物を対象とすること、調査は二次に分けて行うこと等の調査方針・方法を決定した。また、市内の中世石造物の状況を確認するため、二回の市内視察を行っている。

調査は、月に一〜二回程度、中世石造物担当の委員が集まり、二〜三班に分かれて行っている。過去の調査で石造物があった地点のほか、墓地や寺社、路傍の祠といった地点で石造物の所在を確認し、調査対象の石造物があった場合には、写真撮影、カードの作成、拓本の採取等を行っている。今年は、七〜十二月に計八回、妻沼地域において調査が行われ、地域内の所在確認をほぼ終えている。多くの新出資料が見つかるともに、昭和五四年の埼玉県調査時にあった資料が、多く所在不明となっていることが判明した。今後は、妻沼地域のカード作成や拓本採取を終了させ、新地域の調査に入る予定である。

また、六月〜七月にかけて、四回の立正大学との共同調査が行われた。立正大学文学部教授池上悟専門調査員を指導者として、立正大学の学生の手によって、日向福生寺、奈良常楽寺・長慶寺、相上共同墓地の調査を行った。

四 近世専門部会

近世専門部会長 北村 行遠

近世部会では、平成二十一年の主要な活動として、平成二〇年度第三回部会・平成二十一年度第一回部会を開催した。平成二十一年度はあと一回の部会を予定している。以下、部会の内容について簡単ではあるが、まとめておきたい。

平成二〇年度第三回近世部会（平成二十一年三月八日）

・古文書調査について

市史編さん室より史料の所在確認・調査状況の報告をうける。調査終了の文書群のうち、佐谷田田ヶ谷家文書・下奈良集福寺文書・飯塚鈴木進家文書・飯塚川田恒雄家文書の内容などについて報告がなされた。また、調査継続中の文書群には、上中条常光院文書・三ヶ尻黒田勇家文書・上之小鮎昌雄家文書などがあり、新たに借用した文書群としては、本石竹井輝彦家文書・四方寺吉田康久家文書・奈良新田三浦実家文書などがあるとして、それぞれの状態・内容などについて説明をうけた。

あわせてこれまで調査した文書群全体の所在情報として「熊谷市内史料所在情報」・「進捗状況」の一覧表が配付されたが、専門調査員から調査状況を把握しやすいように、「調査済み」とそれ以外の文書群が一覧できるような、表の構成を工夫する必要があるとの指摘がなされ、その点の改善を市史編さん室にお願した。なお、市史編さん室より史料調査・整理は、一部くまがや古文書学習・研究会や立正大学古文書研究会と共同調査をおこなっているとの報告をうけた。

また、専門調査員から点数の多い文書群の目録は、項目を設定して分類した方がよいとの意見が出されたが、市史編さん室では現在のところ時間的な関係で分類はしていないとの回答があり、今後の課題とした。

・くまがや古文書学習・研究会について

市史編さん室より熊谷市で活動している「くまがや古文書学習・研究会」について説明をうけ、同会の市史編さん事業への関わり方について検討がなされた。今後は市史編さん室から古文書の筆耕作業を依頼し、その成果をみながら引き続き部会でも検討していくこととなった。

・市内石造物調査について

すでに中世専門部会によつて、市内の古代・中世を中心とした石造物の調査が開始されている。近世についても簡単な所在調査を古代・中世の調査とあわせておこなつていただけるよう依頼した。

平成二一年度第一回近世部会(平成二一年一〇月一〇日)

・妻沼聖天堂の修復工事の見学

会議に先立ち、修復工事中の国重要文化財の聖天堂や貴惣門などの実地見学をおこなつた。歓喜院聖天堂設計管理事務所長内海勝博氏から工事の方法などについて説明していただいた。見学中、聖天堂再建における江戸との関わりや聖天山と地域の関係などの話題が出た。

・古文書調査について

市史編さん室より、前回の部会報告以降の史料の所在確認・調査状況の報告をうける。藤城城一氏収集文書をはじめ一二件の文書群が調査終了であるとして、それぞれの内容について説明をうけた。また、現在調査中の史料群には、間々田稻荷神社文書をはじめ一六件ほどあり、なかでも四方寺吉田康久家・木石竹井輝彦家・上之小鮎昌雄家などは、数千点規模の文書群であるとの報告

がなされた。今後の方針として、都道府県の博物館や文書館などの公共機関に収蔵されている古文書の調査方法について、調査対象の範囲を含め検討がなされた。

・別編『妻沼聖天山の建築』編纂への協力について

市史編さん室から平成二七年度に刊行予定の別編『妻沼聖天山の建築』について説明があり、「妻沼聖天山の建築」専門部会への協力の要請があつた。検討の結果、近世部会として協力するのではなく、石山秀和・細野健太郎の二名が歴史分野における執筆協力という形で参加することとなつた。

五 近代専門部会

近代専門部会長 村田 安穂

第二回部会 十一月一日(日) 埼玉県立文書館
・協議事項

(1) 新聞雑誌等記事の調査

『新編埼玉県史』編さんの際使用した調査カードに
らい裏面も使用する改良型を使用することにした。

(2) 次回は3月近代・現代両部会の合同で市内巡検
(熊谷・大里・江南地区)を実施することにした。

・報告事項

市史編さん事務局から古文書調査状況(別紙・解説と
目録のCD配布)の説明と市立熊谷図書館所蔵の明治三
五年から昭和三一年までの7点の地図の紹介があった。

・視察 埼玉県立文書館

当館所蔵の「埼玉県行政文書」(明治初年から昭和二
二年までの1万1259点の文書)が歴史資料として重
要文化財に指定されたことで特別展が開催中につき市史
の近代部会にとって基本史料なので見学した。館内展示
および当館収蔵庫を重田委員の説明により見学した。同
時に当館所蔵で熊谷市史の編さんにかかわる史資料につ
いても説明をうけ大変有益であった。

第一回部会 八月二日(日) 熊谷市文化センター
・協議事項

(1) 平成二二年度活動計画について
今年度の継続とする。

(2) 新聞雑誌等の調査について

現代専門部会から新聞等の記事収集について使用する
資料カードの具体的な提案があった。国立国会図書館・
県立浦和図書館・市立熊谷図書館各所蔵の新聞リストが
配布された。近代は現代とも収集範囲が異なり、新聞以
外でも、教育、文芸の異色の機関誌・雑誌も多い。いろ
いろ意見が出た。作業開始は次年度からとしても調査員
の体制、基本計画の立案が必要であるとした。

・視察 埼玉県平和資料館(東松山市)

当館収蔵の熊谷市域の空襲(昭和二〇年八月一四日)
一五日)および戦時下の市民の生活にかんする資料を館
内展示及び当館収蔵庫につき館員の説明により見学した。

六 現代専門部会

現代専門部会長 黒須 茂

部会発足二年次の重点目標として、組織的な資料調査着手を掲げた。現在収集されている「家別文書」中には、現代史資料は皆無の状況であり、そのため行政資料・自治体広報紙資料・新聞資料の調査が今後の資料調査の中心となる。これらの調査はいずれも膨大な時間と労力を要するが、今年度は自治体広報紙調査から始めることとした。

第一回現代史部会（平成二二年四月二六日）

- 一、所在資料の確認と把握
- 二、当面の資料調査

既存の「家別文書目録」では、現代史資料は皆無の状況であることを確認。当面の資料調査は自治体所蔵資料・自治体広報紙・新聞資料であることを確認したが、今年度は自治体広報紙資料調査を重点とした。尚、調査と平行し、市史の章・節構成を早急に作成すべきであるとの意見も出された。

第二回現代史部会（平成二二年六月二一日）

- 一、自治体広報紙・新聞資料調査
- 二、占領軍関係資料の調査について

当面自治体広報紙資料調査を優先し、量的にも多く、膨大な労力を要する新聞資料については、近代史部会とも相談し、予算的な措置もあるので調査は来年度以降とした。占領軍関係資料調査は、今後の課題とした。尚、会議終了後は資料の閲覧・調査時間に充てた。

第三回現代史部会（平成二二年九月二七日）

- 一、調査カードの作成
- 二、自治体広報紙の調査
- 三、資料編章・節構成試案の作成

資料調査の結果、採録を予定した資料は全て調査カードに記入することとし、調査カードの形式等を確認した。自治体広報紙調査は、市史編さん室所蔵分から開始することになり、「章・節構成試案」は専門調査員がそれぞれ担当する分野ごとに作成することとした。今回も会議後、資料閲覧作業に時間をあてた。

七 民俗専門部会

民俗専門部会長 飯塚 好

第一回民俗専門部会

日時 平成二一年六月一三日(土) 午後一時半より

場所 熊谷図書館第二講座室

内容 平成二一年度調査計画、口頭伝承など担当が決まっていない分野について検討。事務局が行う基礎調査についても意見交換した。

第二回民俗専門部会

日時 平成二二年一月一七日(日) 午後二時より

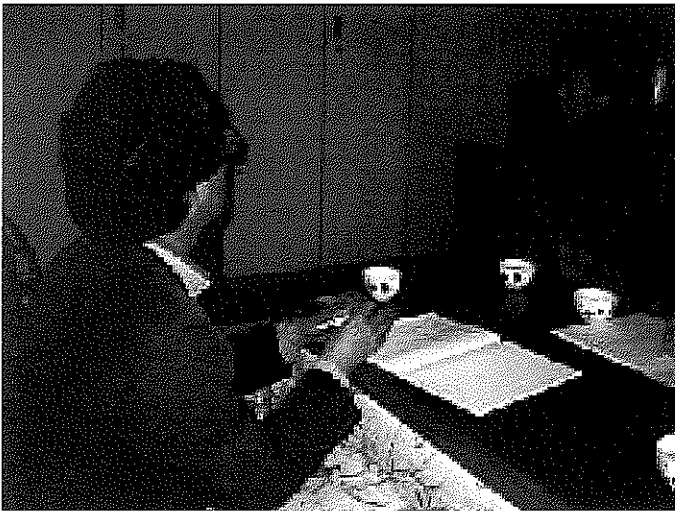
場所 熊谷図書館第二講座室

内容 平成二一年度調査研究活動、担当が決まっていない分野である、交通交易、口頭伝承について検討した。

現地調査

調査地は、大麻生、川原明戸、広瀬、三ヶ尻、久保島、小島、拾六間、東別府、西別府、玉井、今井、上中条、中奈良で、年中行事を中心に、社会生活についても調査

内容に含めた。



現地調査 (三ヶ尻 篠田美代氏)